
俺と天使？【第三章】（5）

榛名屋 忍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺と天使？【第三章】（5）

【Nコード】

N1160R

【作者名】

榛名屋 忍

【あらすじ】

夏樹と義理の母・千絵の会話。そして、事態は動き出す。

「浩之さんからじゃなく、夏樹くんから聞きたいな」

月に何度も顔を合わせない義母。本当の母親ではないのに、ここまで気にしてくれるのはなぜなのかといつも不思議な気持ちにさせられる。

「…そうですか？最近、転校生と友だちになって、瀬名さんが殺された事件のことです。いろいろ聞かれました…」

「うんうん」

「そんな感じですけど…」

夏樹は強引に話を終わらせようとするが、千絵は夏樹を見つめ続ける。

「何を隠してるのかな」

「え？」

「悩んでることとかないの？好きな子ができたとかさあ」

「な…いわけじゃないですけど…」

痛いところを突かれて、夏樹は挙動不審になった。

「あるんだ」

「…部活の後輩から告白されて」

「おっ！やるねえ」

「仲良くしてるって言うか…」

「いいじゃないの」

「そんな感じです」

また夏樹は強引に話を切った。今度は千絵も納得したらしい。

「安心したわ。夏樹くんが元気そうで」

「はい」

「じゃ、お勉強頑張ってね」

「はい」

扉が閉まった。夏樹はまた封筒に目をやった。

「夏樹くん」

再び扉が開く。

「はいっっ!!」

夏樹は驚いて封筒を落とした。中からバラバラにされた写真が現れる。

「やっぱりねー浩之さんも心配してたのよ」

「な、なんのことですか」

「その封筒よ」

「…知ってたんですか？」

「隠してるのは何？」

「嫌がらせ…みたいです…」

千絵は封筒を取り上げてため息をついた。

「悪質ねえ…。安心なさい。死者を冒瀆するような奴にはバチがあらるわ」

「…はい」

千絵も写真に写っている夏樹の母親については知っていた。

「これは私が預かるわ」

「えっ」

「警察に持って行けば何か解るかもしれないし、ね？」

「わかりました」

その時、携帯電話が鳴り出した。将志からだ。

「もしもし」

「渡会、落ち着いて聞いてくれ」

唐突な言葉に夏樹は身構えた。

「何かあったんですか？」

「菅原くんが不審者に襲われた」

夏樹はその言葉に殴られたような衝撃を受けた。

「ええっ！悠里は無事なんですか？」

「大丈夫だ。同級生の家に逃げ込んだそうだ。今は警察で事情を聞いている」

「良かった…。でも、なんで先輩がそれを？」

ほっと息をついて冷静になった夏樹が突っ込むと、電話の向こうで将志が笑った。

「ははは。裏の情報ルートがあるんだよ。まあ、そんなわけだから明日あたり菅原くんに声をかけてやってくれないか？」

「わかりました」

電話を切ると、千絵が話しかけた。

「悠里ちゃんっていうのがその、彼女なのかな？」

「彼女…というわけでもないんですが…」

「とりあえず、不審者が出たなら私も取材に出なきゃ。夏樹くんも気をつけて」

「はい」

扉が閉まると、夏樹はベッドに寝転んだ。嫌な予感的中しないことを祈って目を閉じた。

（後書き）

小説ランキングに参加しています。お気に召しましたら、バナナのクリックをよろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1160r/>

俺と天使？【第三章】（5）

2011年10月7日23時14分発行